

笑顔と心をつなぐネットワーク 明社通信

2016年 夏 号

HEARTFUL

はーとふる

連載

『これからの明るい社会づくり運動・3つの方針』活動紹介

群馬県・高崎明社

連載 未来を創造する子どもたち

第6回 ボランティアで地域を変える女子高生

被災地レポート「わすれない、いつまでも」

第9回 福島県飯舘村 かーちゃんの挑戦



連載

『これからの明るい社会づくり運動・3つの方針』

市内の諸団体と毎年、日本選抜車椅子バスケットボール選手権大会のボランティアを行う地区明社があります。群馬県の高崎明るい社会づくりの会（新井三知夫会長／以下、高崎明社）です。1990年に始まった同ボランティアの取り組みと『たかさきスプリングフェスティバル』への事業参加を紹介します。

国連が定めた1985年の「国際青年年」に、高崎市で実施された各種事業が契機となり、高崎青年連絡会議が発足。翌年からは、同会議がホームステイや車椅子バスケットボールの試合等の事業に着手します。

その後、車椅子バスケットボールの試合は、高崎市が市制90周年の1990年に「福祉宣言都市」を謳ったこともあり、同市の委託を受け、『第1回日本選抜車椅子バスケットボール選手権大会』（主催：高崎青年連絡会議／以下、選抜大会）として開催。現在は日本車椅子バスケットボール連盟と日本選抜車椅子バスケットボール選手権高崎大会実行委員会の主催となり、これまで26年にわたって開催されてきました。

高崎明社は同選抜大会に第1回からボランティアとして参加。約100人の個人ボランティアと16団体とともに従事しています。ボランティアの仕事は、床拭き、スコア

長時間のボランティアを担う



※08は前回からの通し番号です。

ご協力、有難うございます

未使用ハガキで国際協力

ラオスに井戸を贈る運動

ご報告 第1弾

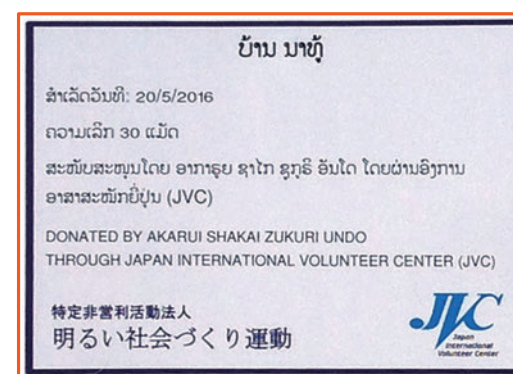
4村に深井戸1基ずつ設置しました

特定非営利活動法人明るい社会づくり運動（全国明社、砂川敏文理事長）は、日本国際ボランティアセンター（JVC）からの協力要請を受け、昨夏より「ラオスに井戸を贈る運動」に着手してきました。

平成28年3月末日までに、全国から20,567枚の未使用ハガキが寄せられ、JVCに送付しました。そのうち、平成27年度の井戸設置事業として、ナトゥー村とボンボック村に深井戸（小）を、ボンボック村とドンサン村に深井戸（大）を、それぞれ1基ずつ設置しました。※残りのハガキは平成28年度の井戸設置に使用されます。

全国明社に寄せられた未使用ハガキの多くは、各地の地区明社並びに協力団体からですが、全国明社のホームページや地区明社が呼びかけたチラシを見て送ってくださった方も多く、ハガキとともに、この国際支援活動の意義と長期的な継続を望む手紙もいただきました。

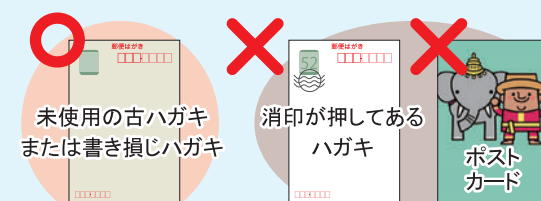
全国明社は今後もJVCと協働して「ラオスに井戸を贈る運動」に取り組みます。未使用ハガキは随時受け付けていますので、全国明社宛にお寄せください。



「日本国際ボランティアセンターを通じ、明るい社会づくり運動から寄贈された」



送ってもらいたいハガキ



ハガキ約900枚で小型の深井戸1基（15家族が使用可能）、約3,000枚で大型の深井戸1基（25家族が使用可能）を贈ることができます。

送り先

〒164-0011
東京都中野区中央5-2-1 第3ナカノビル6階
明るい社会づくり運動「ラオスチーム」係

お問い合わせ先

電話：03-5328-3071 メール：99@meisha.jp



② 青少年育成（かるた大会、車椅子バスケットボール大会奉仕）
③ 広報（祭事等のイベント参加）
④ 協働体促進
の4つのグループで活動を展開しています。
今後は、同じ考えを持つ団体と一緒に、高崎市のために働きたいと願っています。



シートへの記録、タイム測定、得点付けなど多彩ですが、高崎明社は主に駐車場係を担っています。
毎年9月の最終土日に開催される選抜大会は、初日の午前9時の開会式後、午後7時まで12試合を行います。翌日には勝ち残った4チームで準決勝・決勝戦が行われます。ボランティアの集合時間は午前8時30分ですが、駐車場係は午前7時30分に集合し、午後3時まで車の誘導を行います。
また、初日最後の試合が終了後、高崎明社の事務局員は体育館の周囲を巡回し、異常のないことを確認して帰宅。早朝から夜遅くまで長時間のボランティアを担うのは高崎明社だけです。
ボランティアの激励のため選抜大会に訪れる新井会長に、高崎明社会員のボランティアについてお聞きしました。

高崎明るい社会づくりの会 会長
新井三知夫さん
毎年、早朝から夜遅くまで、障がいのある人への思いやりや励ましを拝し、明社人なればこそその行動に感心しています。平成19年からは高崎明社の上部組織にあたる明るい社会づくり運動西毛地区連絡会議もボランティアに参加し、受付でパンフレットを渡したり、持参した雑巾で選手の車椅子のタイヤを拭いていきます。
ハンディキャップを感じさせない選手たちの試合は感動します。そのひたむきに学ぶために、会員の子どもたちにも観戦を呼びかけています。
関連記事12頁「われら明社人」

親子でボランティアに参加するなど、高崎明社ではボランティアの継承が盛んです。毎年、娘さんと参加する事務局の細井利江子さんに成果をお聞きしました。
高崎明るい社会づくりの会 事務局員
細井利江子さん
私自身、障がいを持っている人に偏見を持たなくなりました。脚の不自由さはあるものの、同じ人間として平等だという気持ちです。

これからの明るい社会づくり運動・3つの方針

— 2014年の『全国都道府県会議』で発表した、本運動がこれから目指していく具体的な3つの方針 —

- 1 地域のために活動している諸団体と連携し一緒に活動を行い、身近な問題に取り組む市民運動として展開していく。
- 2 行政等の実施する地域活動や催事に積極的に参加し、行政との信頼関係を築いていく。
- 3 地域に合ったさまざまな活動をきっかけに、地域社会に貢献したいという願いをもった個人・団体へ積極的に呼びかけ、善意の実践の場を提供していく。

これら方針に基づく活動を今後も紹介していきます。

ボランティアを通して、他団体の方々と交流が深まることも喜びです。娘は、学生時代の同級生を誘って、毎年、大会本部で得点表の作成をしています。いまでは、このボランティアが娘たちの同窓会になっていて、とても微笑ましいです。

高崎市のフェスティバルにも参加

高崎市では、毎年4月29日の昭和の日に市民による実行委員会が企画運営する『たかさきスプリングフェスティバル』が開催されます。高崎明社は同フェスティバルにも、毎年参加し、市民に明るい社会づくり運動をPRしています。

今年は明るい社会づくり運動公式サポーターの『耀！連隊 明社レンジャー』とともにたこ焼きを出店しました。

フェスティバルの担当者である鈴木章友事務局長に今後の抱負についてお聞きしました。

高崎明るい社会づくりの会 事務局員

鈴木章友さん

当初は「高崎里山の会」のお手伝いとして参加しましたが、現在は高崎明社としてフェスティバルに出店しています。出店料は2千円。毎年、約3万円の収益があり、活動費に充てています。

高崎明社は、
①環境改善（清掃奉仕、アルミ缶回収）